

うだんします うだちから

「うだちから」とは、宇陀に由来からある地域コミュニティの力(宇陀力)のことです。

このコーナーでは、市が取り組む「まちづくり」やNPO団体などを紹介します。

問まちづくり支援課 82・3910/IP 88・9094

1 まち協で年越ししました

うたの三社初詣&スタンプリリー
〜菟田野まち協〜

2年目を迎えるこの催しは、大晦日の午後11時から元旦午前2時にかけて「宇太水分神社・惣社水分神社・桜実神社」の三社に参拝していただくもので、各神社では、「生姜湯・昆布茶・ぜんざい」などのもてなしをしていただきます。

観光力パワーアップ事業の一環によりLEDライトで社や神社境内をライトアップしたり、宝物庫の重要文化財の特別拝観が行われるなど、各社で趣向を凝らし、みなさんの思い出に残る新年を迎えることができました。



◀昨年、造営が行われた惣社水分神社では、神輿などの宝物品の特別拝観



▶上宮奥興隆寺では住民一人ひとりが鐘楼の中に入って鐘を撞きました。

上宮奥興隆寺 除夜の鐘撞き 〜おおうだ南部まち協〜

宮の奥ダム上流のこの寺には、幸福の鐘と称される鐘楼があり、これまで、鐘楼の保存・継承と地域住民の交流を図る取り組みとして、除夜の鐘撞きを行ってきました。

今年も大晦日深夜から地域の方が集まり、たき火やぜんざいなどの振る舞いで体を温めながら年が替わるのを待ちます。

お正月を迎えるために帰省された方も含め、境内は沢山の方で熱気に包まれていました。除夜の鐘つきには、子どもたちも参加して、地域一丸となった無病息災をお願いされていました。

2 子どもたちが考えた「ごちそうだ弁当」が美味しい!

〜榛原地区まち協〜

1月21日、「子どももお弁当開発プロジェクト」として地元の小中学生22名が考えて作った宇陀産食材を入れたメニュー「ごちそうだ弁当」が完成。

昨年の9月から、子どもたちが4回にわたって討論と実習を重ね素材選びからネーミングまで決定。奈良県立大など多数のボランティアの方々の手助けのもと、市特産の金ごぼうのふりかけやおかずには葛あんをかけたハンバーグなど、彩も味もとても素晴らしいお弁当ができあがりました。

完成したお弁当は、NPO法人うだ夢創の里で特別注文商品として販売を予定しています。



▲これまで4回のワークショップを経て、お弁当の研究を行ってきました。パッケージの絵もみんなで作りましたよ!



▲高井智美先生から丁寧に指導

▶「ごちそうだ弁当」完成品



3 菟田野の魅力発見体験ツアー〜真冬の林業体験〜

〜菟田野まち協〜

1月21日、市内外から42名の参加のもと林業体験を開催。

当日は、①原木伐採見学 ②磨き丸太製造見学 ③カエデの郷ひららで昼食 ④製材工場見学 ⑤カンナ掛け体験 ⑥杉箸工房見学 と盛りだくさんの内容。実際に山林に入ったり、現場での作業を見学しました。

昼食では、やっぱり木造旧校舎が人気。みなさん普段味わえないノスタル



タマネギ

身近な食材として毎日のようにみているタマネギ。私たちが食べているのは、葉の一部に養分が蓄えられたもので、鱗形（りんけい）とよばれる部分です。

タマネギはユリ科の植物で、原産地は北インド、ウズベキスタンなどの中央アジアです。それがエジプトからヨーロッパ各地に広まりました。最初に日本に入ってきたのは1700年頃ですが、このときのもものは伝わらず、1870年頃に欧米から導入された黄色タマネギの種が北海道で根付きました。

ところで、タマネギには切った瞬間から涙を促し、水にさらしてもピリピリと辛い硫化アリルを多く含む辛タマネギといわれる品種

と、硫化アリルをほとんど含まない甘タマネギといわれる品種があります。日本で多く栽培されている黄タマネギは、辛タマネギに属します。一方、赤タマネギや白タマネギといわれる物は、甘タマネギに属します。

みなさんに食べてほしいのは、辛タマネギといわれるものです。血小板凝集抑制作用、即ち、血を固まらせない作用があるからです。古代ギリシャの文献にもすでに、薄切りにしたタマネギを油で揚げたものに血液凝固を阻害する作用があることが書かれています。タマネギには、これ以外にも動脈硬化、高血圧、糖尿病などの予防や治療、抗コレステロール作用があります。



▲動脈硬化などの予防効果があるタマネギ
※当市で「葉草活用講演会」をしていただいた村上光太郎先生の連載より一部抜粋

葉草道遥（やくそうししょうよう）
毎回「葉草」に関わる内容を連載でお届けするコラムです。

問 産業企画課 ☎82・5874 / IP☎88・9075



▲実際に、樹齢70年、直径50cmの杉の大木をチェーンソーで伐採する様子を見学



▲当日の参加者は、2歳の女の子から74歳の女性まで総勢42名。県外からは15名で、一番遠い方は静岡県掛川からのご夫婦でした。

ジツクな時間を楽しめました。お土産は、磨き丸太のツールと洞爺湖サミットでも使用された吉野杉の杉箸セット。日常生活の中で見かける木材ですが、参加者のみなさんは今まで見たことのない現場作業の迫力や木材の香りなど五感を通じて木の魅力と、思い出の地となった菟田野の魅力を感じてくれたようです。

4 地域ぐるみでの子育て応援を研修

（北辰まち協）

1月31日、地域ぐるみでの子育て応援を学ぶため、岡山県奈義町へ視察研修に行きました。

奈義町は、子育て支援に関する施策を充実させ、平成26年の合計特殊出生率が「2.81」で、全国トップに輝いた町です。ここでは、子育て負担の軽減・子育ての悩み相談・住宅整備による住まいの充実など、施策による「安心」と、町のみならず見守りや支援ボランティアなどの子育てを応援してくれる「安心」、この「安心感」が、鍵のことです。



※合計特殊出生率とは、人口統計上の指標で、一人の女性が一生に産む子どもの平均数を示します。

まち協活動の基本は、地域の連携を図りながら、絆を深めていくということにあります。活動を進めていくことは、地域の「安心感」を高めていくことになり、活性化につながっていくということを改めて確認しました。